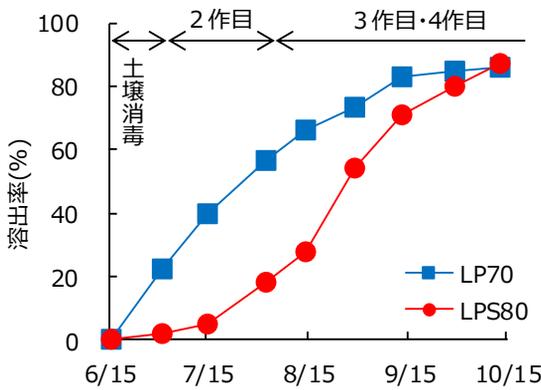


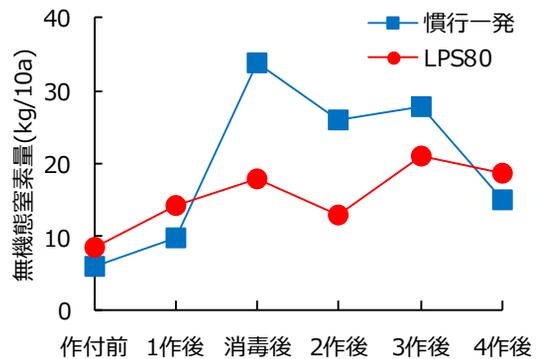
# 雨よけハウレンソウ栽培の被覆尿素を用いた省力かつ効率的な施肥体系を確立しました

飛騨地域の雨よけハウレンソウ栽培において、栽培の省力化をねらい、第1作後の土壤消毒以降3作分の施肥を一度に行う体系（一発施肥体系）に取り組む生産者が増加しています。この時期には土壤消毒により土壤からの窒素発現が増加します。そこで、土壤からの窒素供給量を考慮して被覆尿素の種類を選定し、省力かつ効率的な一発施肥体系を確立しました。

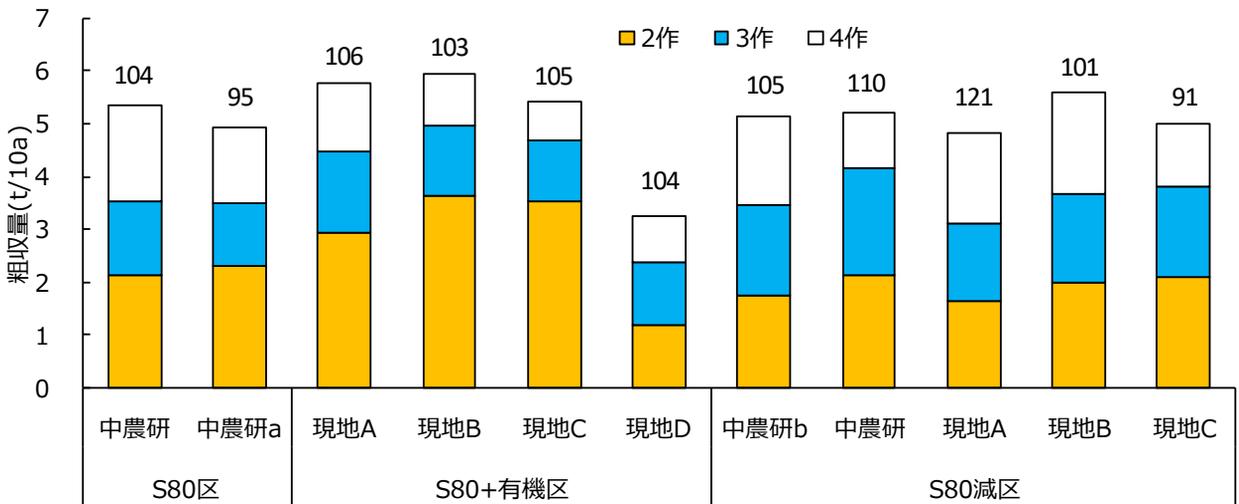
被覆尿素の選定



土壤中無機態窒素の推移



初期溶出抑制型のLPS80を用いることで、土壤消毒による窒素発現を有効活用



2~4作目の収量(同一施肥の1作目を除く。バーの上の数字は慣行栽培を100とした収量指数)

## (研究成果)

- ・ 慣行の一発施肥体系で用いられる肥料には、アンモニア態と被覆尿素(LP70)の窒素が半量程度ずつ含まれ、土壤消毒による窒素発現と肥料による窒素供給が重複します。
- ・ 初期溶出抑制型の被覆尿素LPS80を用いることにより、土壤消毒からその直後の期間に窒素の溶出を抑制し、慣行の一発施肥体系と同程度の収量が得られます。
- ・ さらに慣行より減肥した栽培も可能となります。